

## 夏休みエコいえ作り体験ワークショップ

in 船坂 を開催しました！

住まいづくりニュース



第 12 号

平成 30 年 8 月 4 日（土）と 8 月 5 日（日）、船坂里山学校（旧船坂小学校跡施設）にて「夏休みエコいえ作り体験ワークショップ in 船坂」を開催しました。今年は開催日を 2 日に増やしたことで、暑い中合計 85 名の方にご参加いただきました。

当日は、平成 24 年度の市民ワークショップ「宮っ子エコいえワークショップ」の内容をまとめた「宮っ子エコいえBOOK」を基に、自然と共生した住まい「エコいえ」について学び、船坂地区に残る茅葺屋根の古民家改修現場の見学をした後、学んだことを生かしてエコいえの模型作りを行いました。

講師には、人・まち・住まい研究所の浅見雅之先生、一級建築士事務所 YURIDESIGN の前田由利先生をお招きし、「エコいえ」に関するレクチャー、「エコいえ」の模型づくりのアドバイスをいただきました。また、古民家改修現場の見学では、武庫川女子大学の学生さんが中心となって古民家の再生を行っている「古民家族」の皆さん、そのサポートをされている古材問屋の明木哲生さんにご協力いただき、古民家について分かりやすく説明していただきました。

## □1. 「エコいえ」について学ぶ

先生のお話(15分×2=30分)



はじめに浅見先生から、エコいえに関する基礎知識や暑さ・寒さをコントロールする方法について教えていただきました。また、太陽光の使い方について、ひさしやすだれの有効性により、分かりやすくお話いただきました。

## ●「エコいえ」ってどんな家？

夏の暑さや冬の寒さに対して、電気やガスなどのエネルギーをあまり使わなくても快適に過ごせる家のことです。

## ●暑さや寒さをうまくコントロールするポイント。

①太陽をうまく使う・・・室内に日光を冬は取り入れ、夏はさえぎる。

（ひさし、すだれ、外付けブラインドなど）

②壁や屋根を通り抜ける熱をさえぎる・・・断熱性を高める。

（土壁、草屋根、茅葺屋根、発砲スチロールなど）

③風や空気の出入りを調節する・・・風を通りやすくする。

（窓の反対側に窓をつける、家の下から上に向かって空気の通り道を作るなど）



浅見先生

次に、前田先生から「草屋根」を利用したエコで涼しげな暮らしについて、自邸や前田先生の設計事例などを交えながらお話いただきました。



前田先生

「私の自宅は、石油化学製品を使わず、木と土を主体ですることにより、壊れても土に還るようになっていました。また、屋根に草を生やすことで屋根裏にある子ども部屋が涼しくなるかなと思い植えてみました。調べてみると一般的な屋根材のカラーベストだと屋根の表面温度は真夏で 60℃近くになりますが、草屋根だと 35℃程度にしかありません。それは、植物が暑さから身を守るために葉や茎から水分を放出する「蒸散効果」により、周囲の温度を下げるからです。また、屋根の上でも育つ植物には、メロンやスイカ、オクラやパクチーなどの野菜があり、おいしくいただいています。

先生方からエコいえの話を聞いたあとは、実際に船坂地区にある茅葺古民家の見学を行いました。ここでは、「エコいえ」を体感してもらいながら、古民家改修現場に携わっている「古民家族」の学生さんから古民家についてわかりやすく説明して頂きました。

## □2. 古民家の見学

見学（50分）



この家の屋根は、冬に刈り取った茅を、秋にふき、秋に収穫した竹を屋根の骨組みに使ったりしながら、10年がかりで修復しました。今年は家の裏に小麦畑を作りました。家を直すのに小麦を育てることは関係ないように見えますが、戦後食べ物がなかった時、船坂では小麦を植えていた時期があったそうで、その時に小麦のわらを屋根に使っていたのではないかとされています。古民家族では家の修復と合わせて昔ながらの生活を取り戻す活動もおこなっています。



船坂里山学校から歩いて約10分のところにあります。



外気に比べて室内は涼しく、クーラーがなくても快適に過ごすことができます。



柱や梁は釘を使わずにとめているため解体した後に再利用することができます。



茅葺屋根



床下

幾層にも重ねられた茅葺屋根の断熱性は高く、外気が30℃を超えていても室内は30℃を下回りクーラーをつけてなくても快適に過ごせます。また、床下は地面との間に空間をあげることで、風通しを良くし地面からの熱や湿気を逃がします。



土壁

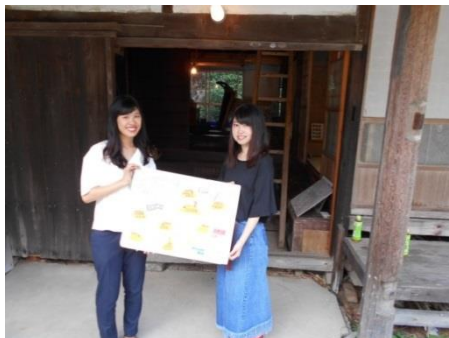


囲炉裏

囲炉裏の火で暖められた空気が土壁の中で保たれるため、室温が下がりにくくなります。また、囲炉裏の熱で周りの床も床暖房のように暖くなるため、外気が0℃を下回る冬場でも古民家の中は暖かく快適に過ごすことができます。



古材問屋 明木さん



古民家の説明をしてくださった古民家族の皆さん



講師からのお話と古民家見学を通して「エコいえ」へのイメージがそれぞれ膨らんだところで、実際にエコいえの模型作りをスタートしました。

### □3. 「エコいえ」を作る

工作 (120分)

模型作りでは、骨組みの家キットにすだれや毛糸、スポンジ等の工夫材料を加えて、それぞれ個性溢れるエコいえに仕上げていただきました。



### □4. 「エコいえ」工夫ポイント発表

発表 (35分)



2日間で個性豊かな 41 軒のエコいえが出来上がり、講師の先生方からのコメントを頂きながらそれぞれの工夫ポイントや感想について何人かの子供たちに発表してもらいました。

みんなの工夫した点・作ったエコいえ

- 日差しを避けるためにすだれを付けました。
- 草屋根を平らにすることで屋上でくつろげるようにしました。
- 庭に木を植えて日差しをさえぎりました。
- 屋根に窓を開けて風通しを良くしました。
- 床下に断熱材を入れて暑くなりすぎないようにしました。



今年のエコいえも様々な工夫が施された力作が勢ぞろいでした。先生たちも「思いもつかないような斬新なアイデアが満載で大変勉強になりました」と感心されていました。

## 講師のプロフィール

### 浅見 雅之(あさみ まさゆき)

合同会社 人・まち・住まい研究所の代表社員。自然と共生した住まい(エコいえ)の観点で設計業務をする傍ら、摂南大学理工学部の講師やまちづくり専門家として多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

### 前田 由利(まえだ ゆり)

一級建築士事務所 YURIDESIGN 代表。草屋根の建築家として数多くの自然と共生した住まい(エコいえ)を手がけている。また「住宅・環境・屋根緑化」をテーマにした講演・執筆活動など、多方面で活躍。「宮っ子のいえアドバイザー」として西宮市内でエコいえの出前講座にも対応。

### 古民家族(こみんかぞく)

武庫川女子大学生生活環境学部の学生有志が主催している古民家再生団体で、西宮市山口町船坂にて毎月1・2回活動している。解体寸前であった茅葺き古民家を、伝統工法に基づきボランティアで修復し、その過程で日本の伝統文化や建築様式について研究している。

## 船坂里山学校(旧船坂小学校跡施設)について

明治6年に開校し平成22年3月末の閉校まで、137年の歴史を有する西宮市で最も古い小学校のひとつで、校舎の大部分が木造となっています。現在、地域の皆さんと市が協働して跡施設の活用について取り組んでいます。平成28年4月より「船坂里山学校」に名称を変更。

## 皆さんの地域でも「エコいえ作り体験ワークショップ」をしませんか？

皆さんの地域でもエコいえ作り体験ワークショップを行いたい場合は、「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」を活用して開催することが可能です。「宮っ子のいえアドバイザー」がお手伝いに伺います。詳しくは市HP「宮っ子のいえアドバイザー派遣制度」をご覧ください！



今後もこのようなイベントを通じ、「エコいえ」について学ぶ場を提供していきたいと考えておりますので、引き続きすまいづくり推進業務へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先 西宮市 都市局 都市計画部 すまいづくり推進課 TEL:0798-35-3761